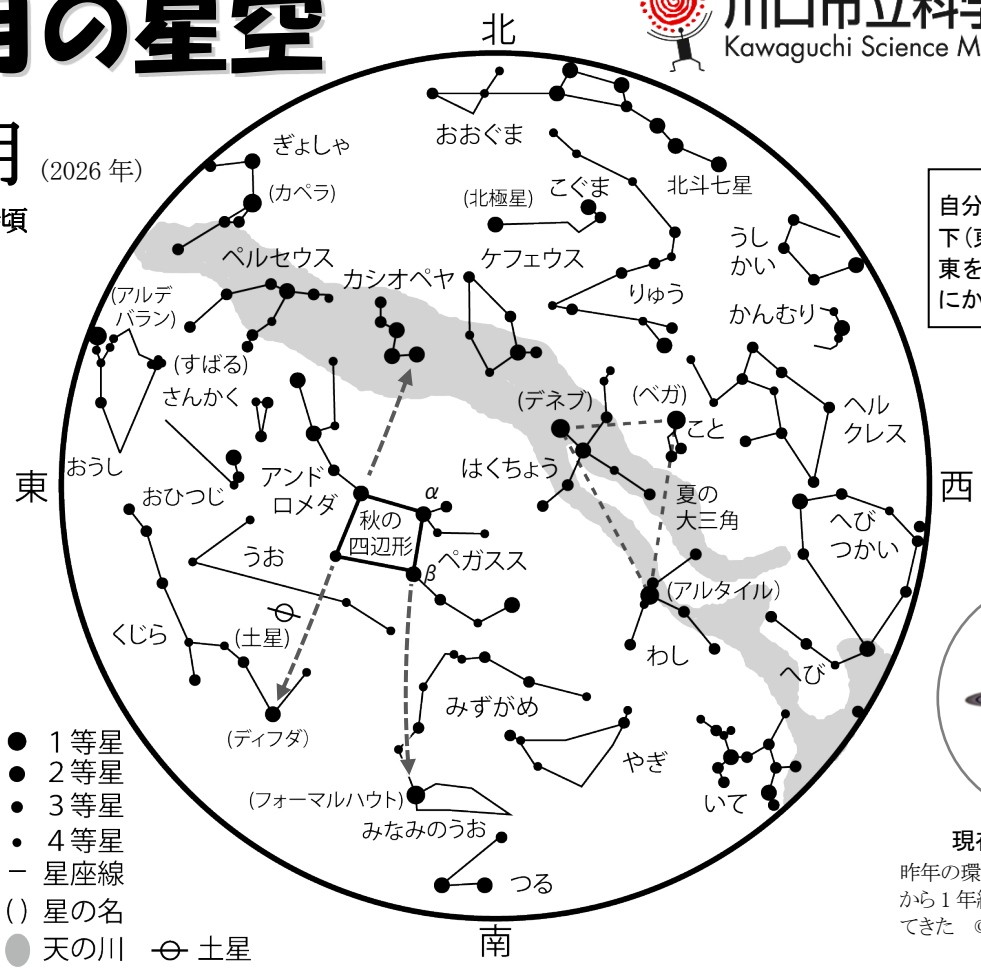
今月の星空

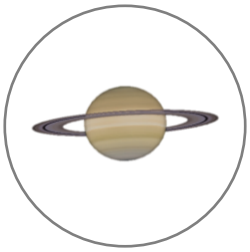
川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum
tel 048(262)8431

10 月 (2026 年)

中旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下(東の空を見るときは東を下)にして、頭の上にかざして見ます。



現在の土星(イメージ)
昨年の環の消失(環を真横から見る)から 1 年経ち、環の傾きが大きくなってきた　©StellaNavigator/AstroArts

月　　齢　◑下弦 3 日、●新月 11 日、◐上弦 19 日、○満月 26 日
惑星情報　火星 日の出前 東→南東(かに→しし座 1 等)　　木星 日の出前 東→南東(しし座 −2 等)
土星 夜のはじめ頃 東→南東(くじら座 0 → 1 等)

☆秋の星座探しは土星と秋の四辺形から

この時期、南東の中ほどの高さに 0 等台に輝く明るい土星が見つかります。来年 3 月頃まで観望シーズンが続きますが、今月 4 日に衝(しょう)(地球から見て太陽のちょうど反対側に位置する)を迎え、今が見頃です。特に衝の頃は地球との距離が近くなるため、①肉眼ではより明るく、②望遠鏡ではより大きい姿で、③一晩中(日没頃に昇り夜明け頃沈む)見えるという利点※があります。次に、土星の周りにある秋の星座を見つけてみましょう。土星よりもやや高いところに、星座探しの目印となる秋の四辺形(ペガススの大四辺形)が見つかります。そこから、星図のとおり、α星とβ星を繋いだ線を延ばすと、みなみのうお座の「フォーマルハウト」が見つかります。秋の星座の中では最も明るく、唯一の 1 等星です。同様に、秋の四辺形の別の辺を延ばした先には、くじら座の「ディフダ」やカシオペヤ座が見つかります。

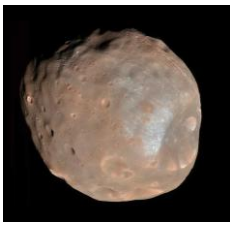
※衝の土星…視直径は 19.7″で 2027 年 3 月(16.2″)の約 1.2 倍、明るさは 0.3 等で同年同月(0.8 等)の約 1.6 倍

☆2 度目のお月見「十三夜(じゅうさんや)」

23 日は旧暦 9 月 13 日にあたる「十三夜」。中秋の名月(旧暦 8 月 15 日)の後に訪れる 2 度目のお月見の日です。十五夜とも呼ばれる中秋の名月は、新月の日から数えて 15 日目のほぼ満月に近い月であるのに対して、十三夜は満月の 3 日ほど前の欠けているとわかる月です。下旬になると月が夜空で目立つようになります。19 日の上弦、23 日の十三夜、26 日の満月と、次第に満ちていく月を眺めてみましょう。

コラム～火星の月を目指す火星衛星探査計画「MMX (Martian Moons eXploration)」～

20 日、日本が主導する国際プロジェクト「火星衛星探査計画」の探査機 MMX が打ち上げ予定です。このミッションでは、世界初となる衛星「フォボス※」からのサンプルリターンが予定されています。打ち上げ後、約 1 年かけて火星圏へ到達し、2031 年に地球に帰還する予定です。日本のサンプルリターン計画では、小惑星探査機「はやぶさ」、「はやぶさ 2」に続く第 3 弾となります。



火星の衛星「フォボス」
©NASA/JPL-Caltech/
University of Arizona

※フォボス…地球の月に比べて平均直径 約 22 km(月は約 3,476 km)と非常に小さい。火星表面から約 6,000 km(月は約 38 万km)の高さを 1 周 7 時間余り(月は約 27.3 日)の速さで周回する。